

2020年度ゼミ（3003 演習 2A／3004 演習 2B）要覧

担当者名	林公則
演習テーマ	環境と経済
校外実習	1、実施しない 2、実施（実施時期：2020年9月）場所は、熊本を予定
メール・アドレス	fwnn4632@mb.infoweb.ne.jp
オフィス・アワー	火曜日と金曜日の昼休み（要予約）
2021年度に開講しない可能性 （在外研究・特別研究）	なし。
授業概要	<p>1. 環境と経済に関わるテーマの文献を輪読する。前期は、『限界費用ゼロ社会』を予定している。後期に関しては、ゼミ生と相談しながら決めたい。環境と経済に関連していれば広く扱うが、たとえば、社会的金融（環境保全などを含めて社会的に意義がある事業にお金を回す）、社会的企業・NPO、公害（水俣病や四日市ぜんそく）、軍事と環境（軍用機騒音、遺棄毒ガス問題）、沖縄問題、自然資源経済（第一次産業を重視する経済）、有機農業、食と環境、再生可能エネルギー、共有型経済（カーシェアリングなど）といった分野の文献が考えられる。</p> <p>2. 校外実習の準備および報告書の作成を行う。関心のあるテーマで班分けをして、その班内での話し合いを通じて校外実習の内容を学生自身がつくっていく。校外実習終了後、報告書を作成する。</p> <p>3. 輪読とは別に、年間2回ほど、卒論に向けての報告をしてもらう。3年時の報告では、学生自身の関心を広げ、深めてもらうことと、自身の関心にふさわしい問いを探すことを重視する。</p>
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と経済に関する基本的な知識を獲得する。 ・輪読を通して、専門的な文献を読む力を身につける。 ・討論を通して、自分の意見を相手に伝える力を身につける。 ・自分の関心がどこにあるのかを考えることを通じて、卒論のテーマを探ることができるし、就職先を考えるきっかけにもなる。 ・発表を通して、レジュメの作成の仕方やプレゼンの仕方を身につける。
授業計画	<p>春学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外実習準備 ・輪読（『限界費用ゼロ社会』） ・学期の後半に、卒論に向けての報告 <p>秋学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外実習のまとめ ・輪読（文献は未定） ・学期の最後に、卒論に向けての報告 <p>※希望があれば、フィールド・スタディと併せて合宿を行いたいと考えている。</p>
予習	報告時は輪読レジュメや校外実習案などの作成。報告者でない場合は、事前に送られる発表資料を読み込んで、ゼミのときに発言できるようにしておく。また、輪読の場合には、講義の前にその週に読むことになっている部分を必ず一度は読み通しておくこと。そのうえで、疑問点などを明確にしておき、議論に参加できるようにしておくこと。

復習	ゼミでのコメントなどを整理・消化して、次回以降の報告につなげていく。
授業に関する注意事項	ゼミへの出席は基本で、無断欠席は認めない。また、現地調査やシンポジウムや合宿など、ゼミ関連のイベントには積極的に企画・参加してもらいたいと考えている（こちらは関心に応じての参加で構わない）。
教科書	ジェレミー・リフキン（2015）『限界費用ゼロ社会』NHK 出版、など。
参考書	ゼミの中で指示する。
成績評価の基準	ゼミでの報告内容及び議論での積極性。
関連 URL	
備考	新たなゼミ生の受け入れに関しては、6 人を上限として考えている。応募人数多数の場合には選考するので、ゼミ変更希望者は 12 月 17 日（火）の 19 時までにメールで私に希望を伝えること。 空きがあれば、1 月以降でも適宜受け入れる。